



1. 貧困をなくそう

経済支援制度

慶應義塾大学では、学生が経済的な理由で勉学の機会を失うことのないように、奨学金をはじめとした様々な制度を設け、学生生活を経済面から幅広くサポートしています。

奨学金

学業に専念できる環境を整え、良識ある知識人として活躍できる人材育成の支援を目的に、成績優秀者を対象とした奨学金、家計状況が急変した際の支援、地方出身者や留学生、海外でのグローバルな学習活動への支援など、学生のニーズに対応する様々な奨学金を用意しています。大学独自の奨学金は全て返済不要の「給付型」であり、学部・研究科独自のものも含めると、その数は110種類にものぼります。奨学金の総額は2024年度時点で10.2億円、受給者数はのべ2,330名です。慶應義塾独自の奨学金の他にも、民間団体、地方公共団体、日本学生支援機構の奨学金も申請することが可能です。

▶ 慶應義塾独自の経済支援奨学金の一例

- 慶應義塾大学修学支援奨学金

生計維持者の死亡・失職・疾病による家計の急変、継続的な収入不足、大規模自然災害(地震、風水害等)による被災など、様々な原因により経済的な困窮を解消できず学費の支弁が困難な学生を支援する奨学金です。修学を強く志す学生が勉学の機会を失うことのないように、困窮の理由を限定することなく幅広くサポートしています。

- 慶應義塾大学東日本大震災被災学生復興支援奨学金

東日本大震災により被災し、経済的に就学が困難である学生を対象とする奨学金です。卒業生や三田会、篤志家の皆様からの寄付も財源に充てて運営しています。

- ゴールドマン・サックス・スカラーズ・ファンド私費外国人留学生奨学金

米国の大手金融機関ゴールドマン・サックスから寄贈された資金により2013年度に創設された奨学金です。人物・学業成績ともに優れ、かつ開発途上国出身である等の事由により、経済的理由で学業に専念することが困難であると認められた私費外国人留学生に対して、使途を学費への充当とする奨学金を給付し、世界に貢献しうる有為な人材の育成に寄与することを目的としています。

奨学金名	対象	給付金額	給付期間	採用人数
慶應義塾大学修学支援奨学金	学部生および大学院生	学費の範囲内の金額	1年間 (再申請可)	100名程度
慶應義塾大学東日本大震災被災学生復興支援奨学金	学部生および大学院生	学費の範囲内の金額	1年間 (再申請可)	6名 (2024年度実績)
ゴールドマン・サックス・スカラーズ・ファンド私費外国人留学生奨学金	学部・大学院に正規生として在学する私費外国人留学生	年額50万円	1年間 (再申請可)	10名

博士後期課程学生支援

慶應義塾は国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)博士後期課程学生支援プロジェクトの「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」と「国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業(BOOST)次世代AI人材育成プログラム」に採択されており、博士後期課程学生が研究に打ち込める環境整備を進めています。

- Keio-SPRING「未来のコモンセンスをつくる博士人材の育成」

日本の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生を育成することを目的とし、研究費および生活費相当額を補助し、挑戦的・融合的な研究活動を支援しています。

- Keio-BOOST「未来のコモンセンスをつくる国際的 AI 先導人材の育成」

次世代 AI 分野の発展に資する研究開発に取り組む博士後期課程学生の人材育成および先端的研究開発の推進を目的とし、研究費および生活費相当額を補助するとともに、大学や研究室の枠を超えた活動を通して専門性を高める機会を提供しています。

プロジェクト名	支援期間	支給額	採用人数
Keio-SPRING「未来のコモンセンスをつくる博士人材の育成」	最大3年間(4年制の場合は最大4年間) ※最短修業年限を上限	生活費相当額(年間220万円) および研究費(年間30万円)	104名(2024年度 新規採用実績)
Keio-BOOST「未来のコモンセンスをつくる国際的 AI 先導人材の育成」	最長3年間(4年制の場合は最大4年間) ※最短修業年限を上限	生活費相当額(年間360万円) および研究費(年間30万円)	5名(2024年度 新規採用実績)

その他の経済支援制度

- 慶應義塾大学ローン制度

慶應義塾が提携している金融機関から学生納付金(授業料等の学費およびその他の経費)を借り入れることができます。

女性のからだ支援～Breezeプロジェクト～生理用品の無償配付

慶應義塾では、女性のからだ支援「Breezeプロジェクト」の一環として、経済状況による生活不安を抱える女子学生を対象に、生理用品の無償配付を実施しています。2024年度は、4月、7月、10月、1月の4回募集を行いました。また、生理用ナプキン無料提供ディスペンサーOiTr (<https://www.diversity.keio.ac.jp/breeze/breeze.html>)をすべてのキャンパスに導入しています。女子学生の生理に伴う心やからだの負担軽減とジェンダーギャップの是正に寄与し、快適な大学生活を送るための一助となることを目指しています。並行して専門医によるからだセミナーの開催や保健管理センターに「女性のからだ・男性のからだ相談室」を開設しています。

慶應義塾大学日吉子ども食堂開催

2024年6月22日、10月5日、12月21日に慶應義塾大学日吉子ども食堂を開催しました。本企画は日吉キャンパスにおける様々な社会貢献に関わるプロジェクトの中の、地域との交流実現に向けた取り組みの一つとして、2022年12月より実施されているものです。公認学生団体である「スローフードクラブ」に所属する学生が中心となって、慶應義塾におけるSDGs達成や地域と大学の関わりを深めるための取り組みの一つとして具現化し、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」の協力の下、日吉キャンパス教職員と共に企画・運営しています。

7回目となる2024年12月21日の子ども食堂には、日吉キャンパス周辺にある小学校4校から約30名の小学生が参加しました。「慶應の学生と交流しよう!」と題して、参加者と大学生と一緒にクイズや工作、食事を楽しみながら、交流を深めました。



第7回日吉子ども食堂の様子